

第1回協議会の概要

1. 小田川合流点付替え事業に伴う川づくりについて	1
2. 第1回検討協議会の議事要旨	2
3. 検討フローと役割分担	3

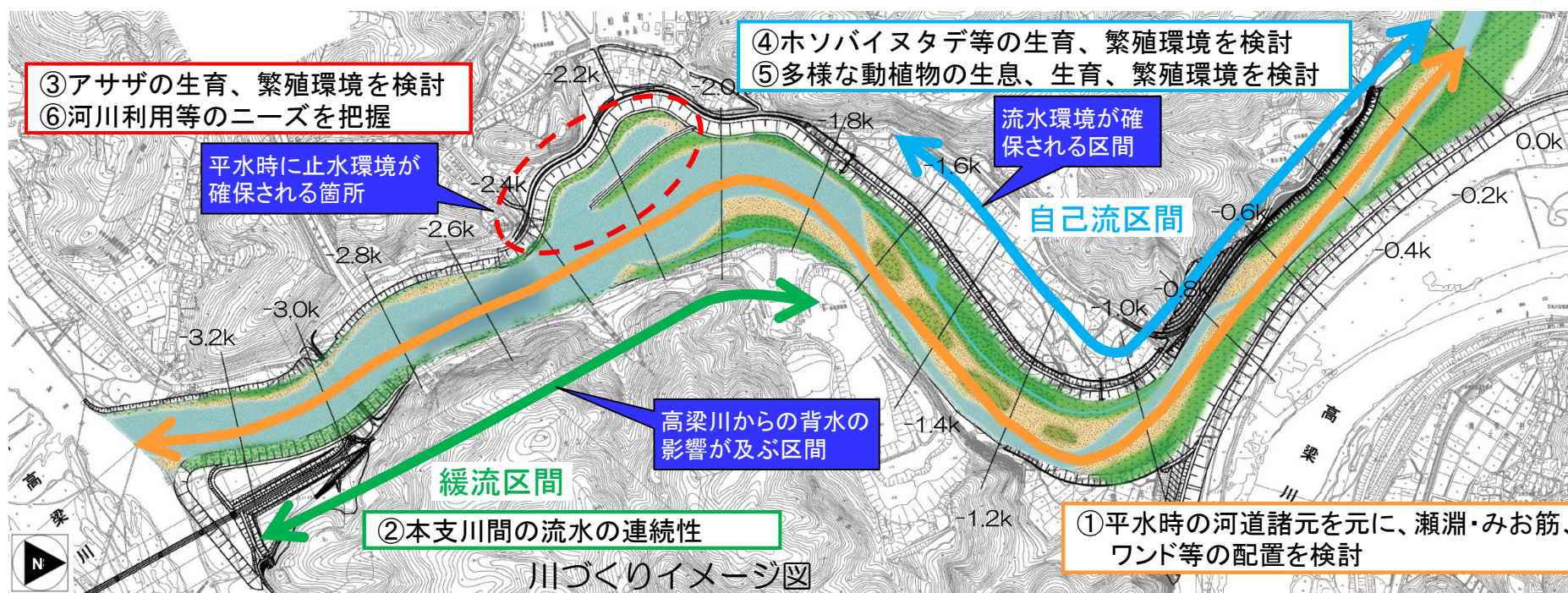
岡山河川事務所

1. 小田川合流点付替え事業に伴う川づくりについて

目標

- 新たに創出する付替河道において、現小田川の環境を延伸し、多様な動植物の生息・生育、繁殖環境、また河川利用を考慮した空間を創出する。

分類	検討項目
多自然川づくりとして取り組む項目	1. 平水時の流水環境整備(瀬淵、みお筋、ワンドの創出) 2. 高梁川と小田川の環境バランス、連続性の確保
環境影響評価結果を踏まえて取り組む項目	3. アサザの生育環境の保全 4. ホソバイヌタデ等の一年生草本の生育適地の整備 5. 在来タナゴ類の生息、繁殖環境の創出
地域からの要望により取り組む項目	6. 河川利用等の観点から親水性への配慮



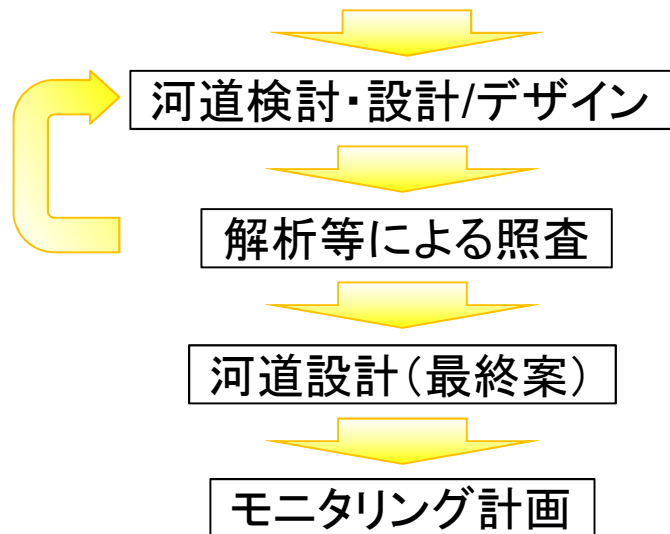
2. 第1回検討協議会の議事要旨

項目	意見等の内容	対応方針
流水環境整備	渇水年においても、影響を小さくする必要がある。	渇水年で瀬切れが生じても深みが確保できるか確認する。 配置検討⇒資料-2 p.5～6
	整備状況がわかるよう、縦横スケールを合わせた断面形を示す。	配置検討⇒資料-2 p.2、資料-4
	維持管理方法を検討する必要がある。	河床変動予測により、将来的にも施設が維持できるか確認する。 ⇒資料-2 p.8～11、p.16～17、p.32、p.36
多様な動植物の生息環境保全	取水方法として、上流からの導水路も検討してはどうか。	河床変動の影響を踏まえて取水口の位置を設定する。合わせて河床変動の影響を確認する。⇒資料-2 p.15～18
	クリーク、高水敷の浸食堆積について検討が必要。	
アサザの生育環境保全	池の水位変動について時系列の確認が必要。	池の水位変動を既往流況から整理する。 ⇒資料-2 p.22～23
	池の水質、ゴミの漂着、底質変化も確認が必要。	流況計算等により、洪水時などの池内の流況を確認し、水質やゴミの漂着、底質の変化について確認する。⇒資料-2 p.24～32
	集落からの排水位置について確認が必要。	現在の排水の水質を確認する。 ⇒資料-2 p.33
一年生草本の生育適地整備	直線的な整備ではなく、適度な起伏、不陸を設けたほうが良い。	河床変動を踏まえた地形のアンジュレーションを初期より創出する。⇒資料-2 p.36～37
河川利用	既往事例を参考に整備内容を検討すると良い。	事例調査(現地確認)を踏まえた整備方針を設定する。⇒資料-2 p.41～44

3. 検討フローと役割分担

検討フロー

検討項目の抽出・目標設定・境界条件設定



第1回協議会

- 具体的な検討方針・条件等の提示
 - ・検討項目抽出の妥当性
 - ・対象種の生息、生育等の環境条件
 - ・検討実施方針の妥当性
- 具体的な対応策(案)の提示
 - ・概略検討結果の妥当性

第2回協議会

- 具体的な対応策の提示
 - ・詳細検討結果の妥当性

次回以降 協議会

- モニタリング計画の提示
 - 例)・評価項目・方法の確認と妥当性
 - ・調査頻度の妥当性

役割分担

【検討の体系】

